

# 地域に親しまれる公園づくり に向けての提言書

---



平成28年12月 戸田市議会 市民生活常任委員会

## はじめに

本市は、現時点において市内に166カ所の公園を整備している。しかし、それらの利用状況にはばらつきがあり、また、公園に関する市民からの意見や要望は多い。

そこで、市民生活常任委員会では、年間活動テーマを「地域に親しまれる公園について」と定め、この一年間、先進自治体への視察や、市内公園の視察、本市公園事業に関する担当課へのヒアリング等を行い、検討を重ねた。

本提言書では、これまでの検討結果を、「公園事業の基本理念」「公園新設に関する提言」「公園リニューアルに関する提言」「公園の維持・修繕に関する提言」としてまとめた。

今後の公園事業にこれらの提言が反映され、本市の公園がより多くの市民に愛し愛される存在となることを願う。

※表紙掲載写真：当委員会が行政視察を行った北海道札幌市中央区幌西キッズ公園

# 公園事業の基本理念

公園は、市民が豊かな地域生活を送る上で、欠かすことのできない重要な社会資本である。

公園事業の運営に当たっては、

- (1) どの年代の市民にとっても安全で集いやすい公園とする
- (2) あらゆる世代の意見を広く取り入れる
- (3) 公園の利用実態や利用満足度の把握に努める

を基本理念とし、主体的に「地域に親しまれる公園づくり」を進めていくこと。

## 公園新設に関する提言

新曽土地区画整理事業地区および新曽中央地区においては、公園の早期整備を推進すること。

- 新曽土地区画整理事業地区においては、計画されている14カ所の公園の早期整備に努めること。また、取得済みの公園用地や保留地に関しては、暫定広場として積極的に地域住民へ開放すること。
- 新曽中央地区においては、目安としている8カ所の公園の早期整備に向け、積極的な公園用地の確保に努めること。
- 公園整備のワークショップは、小学生などの子供たちを含む幅広い世代が参加するものとする。なお、子供たちの参加が困難な場合は、近隣の小学校において公園アンケートを実施し、子供たちの声を最大限汲み取るよう努力すること。

上記以外の地域においては、必要に応じて公園の再編や見直しを検討すること。

- 近隣に公園や広場がある、または周囲を建物に囲まれているなどの理由によって、利用が極端に少ない公園については、利用実態の調査や近隣住民への意見聴取を行った上で、近隣公園との再編や公園機能の見直し（キッズ公園、ボール公園、シルバー公園等）を検討すること。
- 検討に当たっては、公園だけでなく、広場や空地などを所管する各担当課との連携を図った上で、全体的な視野を持つよう努めること。

大規模マンション等の開発事業者に対し、敷地内への公園設置を義務付けること。

- 大規模マンション等の宅地開発事業が行われるに当たっては、周辺環境への影響の軽減及び近隣住民との良好な関係保持のために、事業者に対しマンション敷地内への公園の設置を義務付けるよう、戸田市宅地開発事業等指導条例で規定すること。

## 公園リニューアルに関する提言

「公園再整備ガイドライン」の策定を検討し、あわせて、公園リニューアルのための予算確保と計画性を持った公園リニューアルの実施に努めること。

- 本市の公園リニューアルは、平成2年度から平成10年度にかけて16カ所で実施されて以降、本年度の下前公園リニューアルまで、18年間実施されてこなかった。
- まずは、「公園再整備ガイドライン」の策定を検討すること。ガイドライン策定の有無に関わらず、今後は、積極的な予算確保を行い、計画性を持った公園リニューアルの実施に努めること。
- リニューアルの実施に当たっては、事前に、公園の利用実態や利用満足度、周辺住民のニーズに関する調査を行い、その調査結果及び施設の老朽化の状況等を総合的に勘案し、リニューアル対象公園を選定すること。その際、利用は少ないものの周辺住民の潜在的ニーズは高い公園についても、リニューアルの対象とするよう努めること。
- リニューアル事業に国や県の補助金を活用できるよう、情報収集を怠らないこと。

公園リニューアルの実施に当たっては、原則として、地域住民とのワークショップを開催すること。

- 公園のリニューアル事業は、従来のように行政やコンサル主体で行うのではなく、地域住民とのワークショップを開催することで、住民主体の事業とすること。
- ワークショップは、小学生などの子供たちを含む幅広い世代が参加するものとする。その際、近隣小学校における公園アンケートの実施も検討すること。



- ▲ 「広場づくりのワークショップ」：新首中央地区に平成29年度に新たに整備される予定の広場に関し、全4回のワークショップが開かれた。小学生や未就学児を含む幅広い世代が参加した他、メールでの意見募集も行われた。

## 公園の維持・修繕に関する提言

大型複合遊具の設置・交換に際しては、地域住民や公園利用者に対するアンケートを実施すること。

- 大型複合遊具には多くの種類があり、それぞれに異なる特徴があるため、遊具の選定を行政主体で行うと、利用者ニーズとの乖離が生じてしまう恐れがある。
- 遊具の選定に利用者の意向を反映させるため、公園内に大型複合遊具を新たに設置する、もしくは既設の大型複合遊具を交換する際には、地域住民や公園利用者に対して広くアンケートを実施すること。
- 公園利用者に対しては、公園内にアンケート周知の掲示板とご意見ポストを設置する手法が適切である。



▲「大型遊具アンケート」：平成28年度に実施される下前公園のリニューアルに際し、近隣住民に向けて大型複合遊具に関するアンケートが実施された。回答は326件集まり、リニューアル全体に対する自由意見は75件寄せられた。

公園の修繕に当たっては、単なる原状回復や設備交換にとどまらずに、公園をより良くするための工夫を凝らすこと。

- 公園の修繕においては、特に以下の2つの観点に立ち、公園をより良いものにするよう努めること。
  - ①コミュニティ醸成：人がくつろぎやすくなるようなベンチ等の配置。
  - ②防犯：死角が無くなるような遊具の配置、植栽の剪定、柵等の撤去。

公園利用者に対しては、利用モラルの醸成とあわせて、美化活動への協力を促すよう努力すること。

- 公園利用者に、美化活動へ協力してもらうことで、公園への愛着形成やコミュニティの醸成が図られることが期待される。以下に、2つの方策を提案する。
  - ①美化活動への協力者の顔写真やメッセージを掲載した看板を、公園内に設置する。
  - ②美化キャンペーンとして、年に数回「公園清掃の日」を開催する。その際、公園内にポスターを掲示するなどし、公園利用者から参加者を広く募集する。
- 公園利用に関して、世代間の共存が課題となる場合は、時間帯でのシェアを促す等の方策を検討すること。

女性でも使いやすい公園トイレを目指すこと。

- 防犯上の観点から、死角が無くなるようなトイレとすること。具体的には、トイレの配置やトイレ内のレイアウトの改善、目隠しフェンスの撤去等が考えられる。
- いつ使ってもきれいなトイレと維持するために、毎日実施されている公衆トイレ（男女別トイレ）清掃の検証を行い、あわせて、月に6回実施されている兼用トイレ（男女兼用トイレ）清掃については、個々の状況に応じて清掃回数の増加を検討すること。



▲喜沢第一公園：トイレで物騒な事案が発生していたことから、死角を少なくするために目隠し柵が撤去された。

雨水が適正に処理される公園とすること。

- 近年、ダスト舗装した公園や広場からオーバーフローした雨水が、ダストとともに敷地外に流れ出して敷地周辺の側溝に詰まり、冠水を引き起こす事案が散見される。
- 雨水が適正に処理される公園とするため、公園新設やリニューアル、修繕の際には、敷地内に雨水貯留・浸透施設を設置するよう努めるとともに、敷地外にダストが流出しないための対策を図ること。



市民生活常任委員会

委員長	本田	哲
副委員長	真木	大輔
委員	馬場	栄一郎
委員	石川	清明
委員	秋元	良夫
委員	栗原	隆司